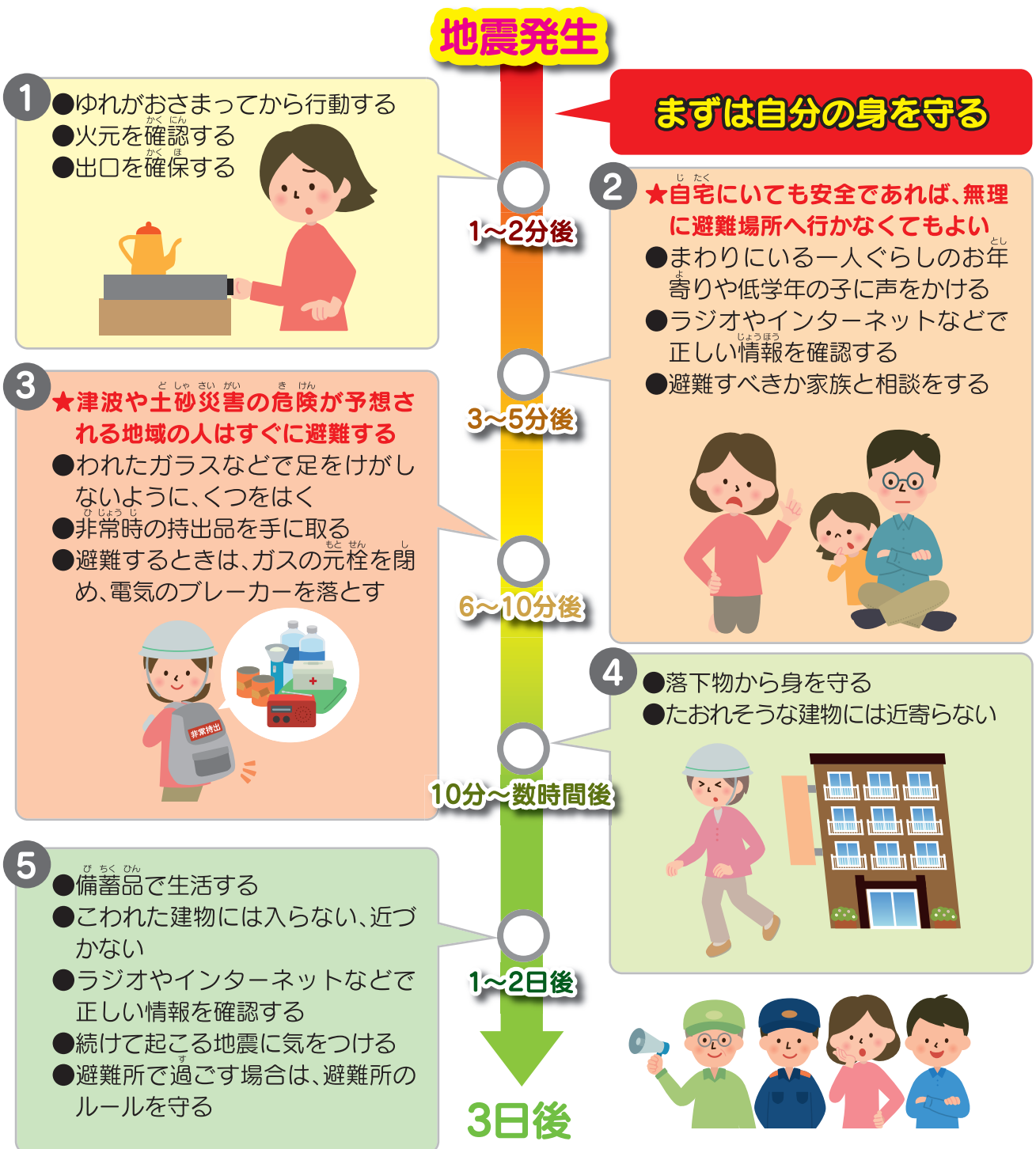


避難するときの注意

地震発生直後からの3日後までの行動

大きな地震が起きたとき、落ち着いて行動するのはむずかしいことです。しかし、いざというときのために、行動できるよう、頭の中できり返しイメージをしておきましょう。



避難するときの注意点

避難するときは、以下のことに気をつけて、命を落とさないように注意しましょう。

●津波や土砂災害の危険がある地域、自宅がこわれてしまうおそれがある場合は、すぐに避難しましょう。

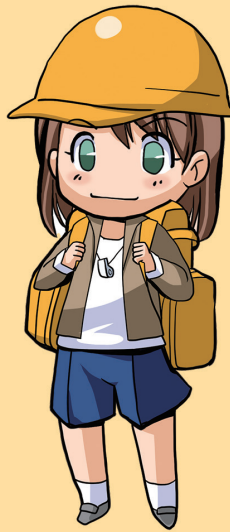
●空き巣が入らないようになるべく自宅のカギを閉めてから避難しましょう。

●なるべく大人といっしょに、避難しましょう。



●動きやすい服そう
で避難しましょう。

●もちもの：必要なものだけをリュックなどに入れて持って行きましょう。いざというときに危険を知らせるため、ホイッスルなどを持っておきましょう。

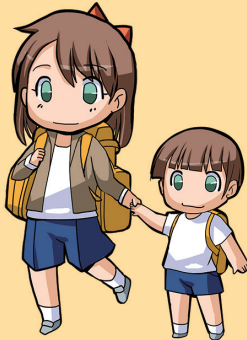


●くつ：はきなれたくつをはきましょう。

●ぼうしやヘルメット：頭を守るためにぼうしやヘルメットなどをかぶりましょう。

●できるだけ両手に物を持たないようにして避難しましょう。

●お父さんやお母さんになるべく車で避難しないことを伝えましょう。



●山などの斜面や海、川に近づかないようにしましょう。



避難したあとの注意点

いろいろな人が集まる避難所では、新型コロナウイルスなどの感染症にかかったり、うつしたりしないように感染症対策をしっかりと行いましょう。

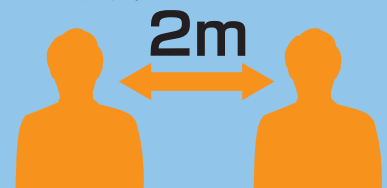
●避難所では、決められたスペースの中で過ごしましょう。

●手洗いや、マスクをつけておくなど、感染症対策を避難所でも行いましょう。

●家族以外の人とは、2mはなれたり、時間をずらして食事を受け取りに行くなど、避難所でのルールを守り、感染をふせぎましょう。

●走りまわったり、大声でさわいだりしないようにしましょう。

●お年寄りや、病気の方など、避難所にいる方々が過ごしやすいように気を配りましょう。



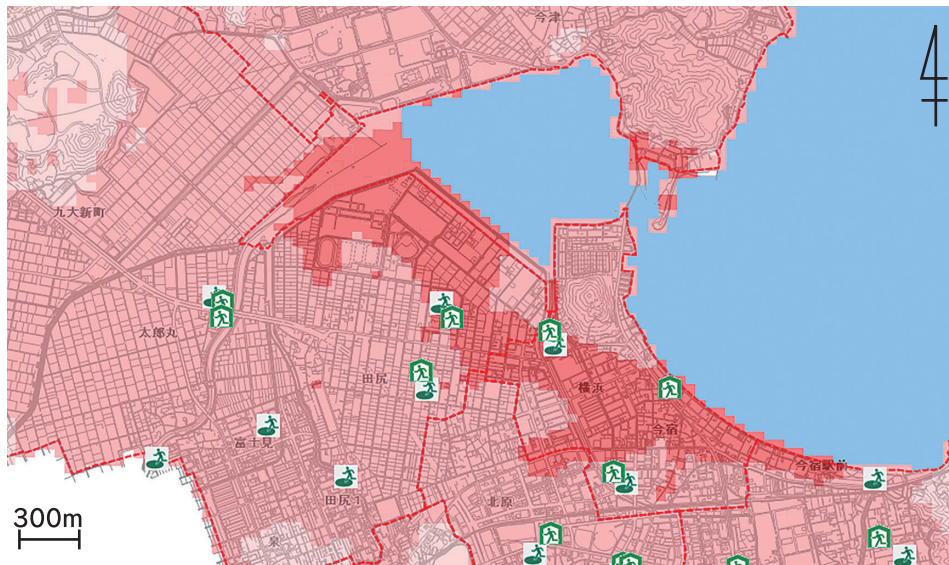
地震・津波ハザードマップを見てみよう

地震・津波ハザードマップは、災害の発生が想定される場所や避難所などが記された地図です。地震・津波など、それぞれの災害がどの場所で起きる可能性があるのかという情報を知ることができます。

地震・津波ハザードマップを見ながら、家族ともしものときにどのように避難をするか話し合ってみましょう。

地震・津波ハザードマップの見方

地震・津波ハザードマップは、災害の起こりやすい場所がわかりやすいように色分けされています。避難するときに危険な場所を通らないよう、学校や自宅から避難所・避難場所までの道を確認しておきましょう。



福岡市今宿付近の地震ハザードマップ

地震

地震が起きたときのゆれやすさマップ

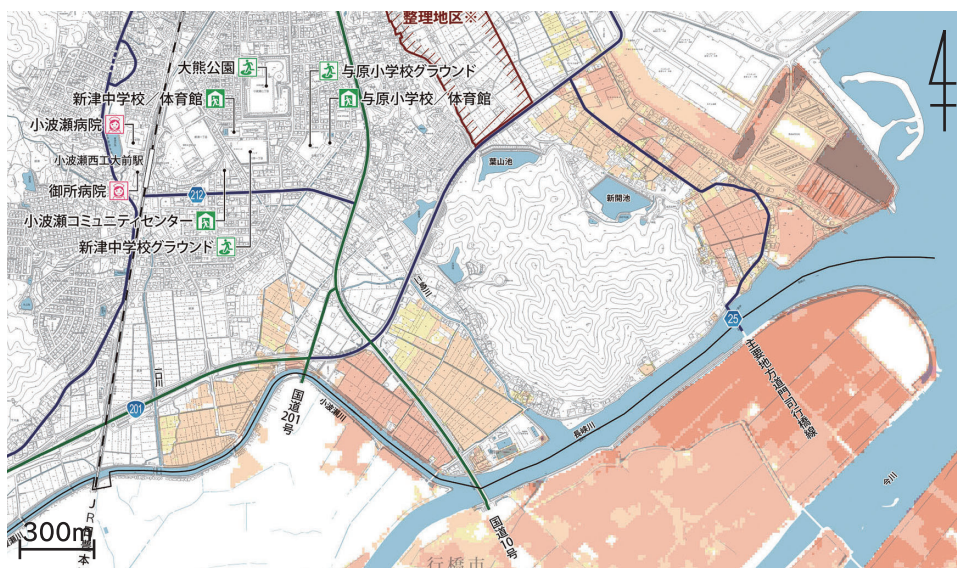
- 震度5弱
- 震度5強
- 震度6弱
- 震度6強



地震時に使用できる避難場所



地震時に使用できる避難所



福岡県刈田町付近の津波ハザードマップ

津波

浸水した場合に想定される水深

- 0.3m未満
- 0.3m～1.0m未満
- 1.0m～2.0m未満
- 2.0m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m～10.0m未満
- 10m以上



津波時に使用できる避難場所



津波時に使用できる避難所

「色がついていない＝安全な場所」というわけではない

地震・津波ハザードマップは、色がついていない場所が安全というわけではありません。災害が起こる場所や災害のレベルによっては、地震・津波ハザードマップの色がついていない場所でも大きくゆれたり、津波がおし寄せられる可能性があります。釜石市の小学校で教えられていた「避難の3原則」の①「想定にとらわれるな」を忘れずに！